

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 2 回 定例委員会
日時	平成 2 1 年 2 月 9 日 自 1 5 時 0 0 分 至 1 6 時 5 0 分
場所	苫小牧市役所第 2 庁舎 1 階会議室
出席委員	委員長 吉本 俊 憲 委員 鈴木 正 樹 委員 佐藤 郁 子 委員 佐藤 守 委員 山田 眞 久
欠席委員	
会議録署名委員	佐藤 郁 子 委員
会議録作成職員	総務課総務係主事 平田 拓也
事務局職員	学校教育部長 澤田石 綱 紀 スポーツ生涯学習部次長 小野寺 徹 示 学校教育部次長 福田 小夜子 指導室長 村上 廣 行 総務課副主幹 池 渕 雅 宏 総務課総務係主事 平 田 拓 也
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（吉本委員長） …15時00分
2 会議録署名委員の指名（佐藤郁委員）
3 報 告（教 育 長）
<ul style="list-style-type: none"> ・三学期も残すところ2ヶ月を切り、子供達は巣立ちの時を迎えている。友達や先生
<ul style="list-style-type: none"> との別れ、自分の成長を確かめる時期であり、豊かな感性を育てる時期である。思い
<ul style="list-style-type: none"> 出深い充実した学校生活になるよう、また、事故等がないよう安全管理を徹底したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・最近の教育動向について報告したい。はじめに、1月30日文部科学省は学校にお
<ul style="list-style-type: none"> ける携帯電話の取扱いについて通知をした。内容としては、携帯電話の持ち込みを原
<ul style="list-style-type: none"> 則禁止とするというもの。ただし、連絡手段とせざるを得ない場合は、保護者から校
<ul style="list-style-type: none"> 長に持ち込み許可の申請をさせ例外的に認める場合も考えられるが、この場合、校内
<ul style="list-style-type: none"> での使用は禁止し、一時的に預かる等の配慮をすることとなっている。さらに、学校
<ul style="list-style-type: none"> や教育委員会は情報モラル教育に取り組むことと示されている。本市においては、これ
<ul style="list-style-type: none"> までも学校に持ち込ませない指導をしており、情報モラルについても警察や携帯電話
<ul style="list-style-type: none"> 業者等関係機関の協力を得ながら取り組んでいるところ。学校保健会においても、今
<ul style="list-style-type: none"> 年度の研究活動として携帯電話の実態調査をしている。こうした取り組みを生かしな
<ul style="list-style-type: none"> がら、今後は家庭でのルール作りとフィルタリングの促進を保護者に啓発することに
<ul style="list-style-type: none"> 努めたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・先月、全国体力運動習慣等調査の結果が公表され、1985年に比べて著しい体力
<ul style="list-style-type: none"> 低下が明らかになった。本調査は、運動能力と運動習慣を調査したが、北海道は全国
<ul style="list-style-type: none"> 平均を2～5ポイント下回っている。本市は全校が参加したが、全国的には70%の
<ul style="list-style-type: none"> 参加率であった。朝食や睡眠時間など生活習慣の関係は深く、運動する子としない子
<ul style="list-style-type: none"> が二極化し、特に運動しない女子生徒が増加しており、運動部やスポーツクラブの盛
<ul style="list-style-type: none"> んな地域が良い結果を生んでいるようだ。中間まとめによると、本市は北海道全体と
<ul style="list-style-type: none"> 同様に、体格は良いが運動能力は低いという結果が出ている。全国学力テストと近い

<p>結果を示しており、北海道教育委員会としても改善策を検討したいとしている。学校では、これまでも休み時間などを利用して体力作りを習慣化するという取り組みを進めているが、家庭での生活習慣の問題もあるため、保護者や地域との連携を視野に入れ取り組んでいかなければならないと感じている。</p>
<p>・本日の議題にもあるが、教育長の諮問委員会を召集し苫小牧市教育推進の重点を作成した。国の教育基本法、学校教育法の見直し、学習指導要領も変えるという流れの中で、北海道教育委員会や胆振教育局は教育計画の見直しを行ってきている。このような一連の状況の中で、昨年、苫小牧市では第三次生涯学習推進計画を作ったが、学校教育に関しては整理されていない部分があり、今回、教育推進の重点を作成したというもの。後ほど、議案として取り上げられるので、審議をお願いしたい。</p>
<p>・学校では卒業式が近づいている。子どもたちの晴れ舞台であるため、今年も可能な限り出席をお願いしたい。</p>
<p>(吉本委員長) 教育長報告に関連して質問をお受けする。</p>
<p>(佐藤守委員) 全国学力テストは教育委員会の中で検討委員会を立ち上げたが、体力テストについても同じような形をとるのか。</p>
<p>(教 育 長) 今のところ考えていない。北海道教育委員会もプログラムを見直している段階なので、様子を見て検討したい。</p>
<p>(吉本委員長) 学力テストの結果については、現場の指導教育を改善していくために使用されているようだが、体力テストも何らかの形で学校教育に活かされるということで理解して良いのか。</p>
<p>(教 育 長) 結果が公表されて間もないので、これから検討をしていくが、現在の休み時間もとれないような時間に追われている学校生活の中で、どこまでできるのか難しいところ。いずれにしてももう少し時間が必要である。</p>
<p>(鈴木 委員) 各種スポーツ大会を見ていると、体力の二極化が著しい。両親が共働</p>

<p>きで自分でどのように運動したらよいかわからない子や生活習慣が乱れている子が多いと思う。緊急に、学校の中で体を動かせる時間をとっていただきたい。</p>
<p>(吉本教育長) 今後、体力運動能力を高める手法の実現化に期待したい。</p>
<p>4 議案審議</p>
<p>議案第一号 苫小牧市教育推進の重点について</p>
<p>(指導室長)</p>
<p>・苫小牧市教育推進の重点について、説明させていただく。現在のものは、平成12年に策定され9年経過しているが、今般、北海道教育ビジョン、胆振教育推進の全体構造が改定されたことから、この関連に配慮して本市が新たに目指す教育の基本理念などを市民に示すものである。概ね、今後10年間使用していきたいと考えているが、社会の変化や時代の要請などに対応するため、必要に応じて改定が必要であると考えている。策定までの経緯については、昨年、教育長の私的諮問機関として、苫小牧教育推進の重点検討委員会を設置し、23名の委員により昨年の6月から3回に分けて委員会を開催、検討協議を行っていただき、10月に答申がなされ、その答申をもとに本計画を策定した。(以降、議案第一号資料を読み上げ)</p>
<p>以上の内容について審議の上、承認いただきたい。</p>
<p>(吉本委員長) 関連して質問をお受けする。</p>
<p>(佐藤守委員) 前回のものは、学校教育の重点と社会教育の重点に分かれており、社会教育の重点の中に市民スポーツ活動の推進という項目があったが、今回はスポーツや体力作りについての項目はないのか。スポーツ都市</p>

宣言をしている苦小牧らしさが必要ではないか。
(指導 室長) 学校教育と社会教育の融合と言われている今、一体して子供の教育が進んでいかなければならないという状況を鑑みて一本化した。スポーツについては特に取り上げてはいないが、重点2の中に含ませた内容になっている。
(スポーツ生涯学習部次長) この資料の後ろのページに各担当課の事務を掲載する予定としており、重点2に対応させた部分として、スポーツ課の事務としてスポーツ振興という内容が盛り込まれるため、ご理解いただきたい。
(吉本委員長) 生きる力が教育の中で重要視されてきており、生きる力を身に付けさせるということが様々な角度から指摘されてきているが、今回の計画には含まれているか。
(指導 室長) 教育推進の指標の中に盛り込まれている。生きる力については、平成10年に学習指導要領に盛り込まれ、新しい学習指導要領においても基本的な考え方は変わっていないが、生きる力という考え方をすべての人が共有しなければならないという表現に変わっており、その思いは、本計画に盛り込んでいる。
(佐藤郁委員) 重点5にある郷土というのは、文化芸術の範囲を含めているということなのか。生涯学習の活動としてまず連携ということを挙げているが、地域限定のことではなく、全体的なこととして理解して良いのか。
(指導 室長) 苦小牧市の子供たちを、苦小牧を愛し苦小牧のために頑張り郷土を支えていけるように育てたいという思いも含まれている。
(吉本委員長) 他に質問がなければ、この案で承認してよろしいか。
(一同「異議なし」の声)
なお、委員会で承認後も質問等があれば、指導室長まで問い合わせいただきたい。
—原案どおり承認—

議案第二号 平成20年度教育委員会の点検・評価報告書について
(吉本委員長) 前回の協議に基づいて、本日は主要施策の評価の部分について議論したい。佐藤郁子委員より事務局へ質問があったと聞いているが、説明をお願いしたい。
(佐藤郁委員) 施策1の「学力向上拠点形成事業の推進」について、文部科学省の補助が単年度で終了するからDというのではなく、事業の内容を照らし合わせてAまたはBの評価にあたるものではないかと伺った。継続するに値するものであれば、A/Bの評価になるのではないかと意見を出した。
(吉本委員長) つまり、少人数指導を取り入れた学習指導を継続することで子供の学習意欲は向上したという成果が出ているので、単年度で終了しているとはいえAやBで評価するのが相応しいのではないかという意見だと思うが。
(教 育 長) 事業は終了し予算がつかなくなったということで評価としてはDとしているが、学力向上は常に求めていかなければならないことであり、事業としては終了したが、学力向上に向けた活動は当然継続していく。事業は終了したが、主旨は今後も生かすと括弧書きをした上で、評価をAやBというように変えてもいいと思うが、あくまで19年度の評価としては終わったものとして、Dの評価を行ったということ。
(佐藤郁委員) Dとしてしまうと、事業はどうだったのかという実際の評価が分からないのではないかと。一定の効果があったのであればそれは評価として乗せるべきだと思う。括弧書きや文科省がどうのという説明をつけると評価が統一せず混乱するのではないかと。これをDとするとこれ以降の

評価でも、効果はあっても事業は終了したのでDとなり、事業自体の
評価はわからないことになってしまう。
(教 育 長) この事業が終わっても当然学力向上は行っていくが、この事業だけに
スポットを当てた評価になってしまっているため、事業の目的である
学力向上に対する評価をしたい。
(佐藤守委員) 単年度事業と継続事業を分けて評価すると分かり易いのではないか。
(鈴木 委員) 単年度事業であっても今後も学力向上を進めていくのであれば、やはり
評価しなければならないと思う。
(教 育 長) 施策に事業名を記載しているためわかりづらくなってしまっているの
ではないか。「学力向上の推進」として事業を評価し、括弧書きで拠点
形成事業について説明するということではどうか。
(吉本委員長) その方がわかりやすいと思う。評価についてはAでよろしいか。
(佐藤郁委員) 必要性が高くて継続する必要があるのならAになるとは思いますが、Cや
Dの評価が問題で、その辺が整理されればAかBということも求めら
れてくると思う。
(吉本委員長) 前回の委員会でも触れたが、この点検・評価は初めて実施するもので
ある。初めてだからいいというわけではないが、回を重ねれば、評価
方法や内容について精査されていくのではないか。今回の評価につい
てはAということで承認いただきたい。次に、佐藤守委員から、委員
の活動状況や学校訪問の評価について意見があるとのこと。説明をお
願いしたい。
(佐藤守委員) この点検・評価にあたって、すでにホームページで公開している市町
村の資料を拝見したところ、評価の指標として様々な方法が見受けら
れた。その中で、委員の活動についても評価しているところがあった
が、その辺について、本市ではどのように考えているのか。外部評価
で触れられるのか。

(吉本委員長) 教育委員が教育現場に足を運ぶというのは当然のことであり、学校訪問等を評価の対象とする必要があるのか。
(佐藤守委員) 他市町村でも掲載していないところもあるが、委員会の活動としてみたとときに、外部の人が見て分かり易くなっていれば良いと思う。
(吉本委員長) 確かに分かり易くなっていれば良いと思うが、評価の対象とするかどうかは別の話になってくる。
(鈴木 委員) 基準をどうするかが難しいと思う。この資料にない教育委員会が主催の各種スポーツ大会等の参加は委員の活動としないのか。
(総務課副主幹) 教育委員として出席を求められ出席したものについて委員の活動としている。
(吉本委員長) 慣例的なものや名前だけ使用されるものなどがあるが、全てを委員の活動とすると幅が広くなり、分かりづらくなる。実働的なものを委員の活動としているということでよいと思う。先程の学校訪問等の評価の件については、評価というよりも活動状況の中で説明した方が良いのではないか。本件については初年度ということもあるので、様々な分野からの批判や疑問を受けながら、ひとまず実践してみるということで承認してよろしいか。
(一同「異議なし」の声)
—原案どおり承認—
議案第三号 損害賠償額の専決処分について
(スポーツ生涯学習部次長)
・ 11月4日に発生した交通事故の専決処分について説明を行う。交通事故の内容と

<p>しては、文化交流センターの62歳の男性職員が公用車で駐車場にバックで入れようとしたところ、すでに駐車していた車に接触したというもの。その賠償金が101,734円に確定したため、これにより100万円以下の賠償ということで、12月30日付けで専決処分としたものであり、議会に報告するものである。</p>
<p>(佐藤守委員) 保険の範囲内か。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 全額保険の範囲内となる。</p>
<p>(吉本委員長) 以上の内容で議会に報告するという事で承認してよろしいか。</p>
<p>(一同「異議なし」の声)</p>
<p>—原案どおり承認—</p>
<p>議案第四号 苫小牧市学校給食共同調理場運営審議会委員の委嘱について</p>
<p>(人事案件のため、秘密会とする旨議決する)</p>
<p>議案第五号 教育委員会職員の人事について</p>
<p>(人事案件のため、秘密会とする旨議決する)</p>
<p>5 協 議</p>
<p>(佐藤守委員)</p>

<p>・新聞で拝見し不明な点があったので、お聞きしたい。一つ目は、アウトリーチ推進事業に新年度から着手するということだが、詳しい内容を聞きたい。もうひとつは、放課後学習いわゆるホカベンが好評であるということについて、実施する中学校が増えている中、現在は学校独自で行っていると思うが、大変よい活動だと思うので、今後、教育委員会で積極的にバックアップしていく考えはないのか。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部次長)</p>
<p>・アウトリーチ推進事業については、新年度から実施することで予算計上をしている。文化振興基金で1億6千万円程度の財源があり、運用として利息や土地の賃借料で収入は200万円を超えている。今回は、基金本体から年に350万円程度取崩し、その一部をアウトリーチ推進事業に充てる方向で検討している。アウトリーチ事業の対象は様々なものが考えられるが、事業の対象である学校や地域から広く意見を聞くため、まずは校長会や町内会にどのような要望があるのかを投げかけて行きたい。今年度は50～100万くらいの財源で事業を進めていきたいと考えている。</p>
<p>(教 育 長)</p>
<p>・全国学力テストの結果を受けて、それぞれの学校で保護者への報告や子どもたちへの対策を行っているところであるが、放課後学習は補習のようなもので、本来は、授業の中で子供達にどれだけ理解させるかということが一番の基本である。先生方には、一時間の授業にしっかりと向き合ってほしいと思っている。そういった意味で、学校に対し、家庭で学習する習慣を身に付けることに取り組んでいただくよう指示している。しかし、中学生は目の前に受験が迫っていて不安な気持ちを抱えている。そのような生徒に対してすぐに対応できる活動ということで放課後学習が始まったように思う。ただ、「うちの子は塾があるから早く帰宅させてほしい」ということもあれば、地域によっては塾にいけない地域もあるわけで、そのような中で先生方が何かできないかという思いでやっているのではないか。報道では、先生方の言葉として外部から先生をとということがあったが、本来は勉強を見るのは先生である。勉強を外部に任せ部活をやるというのは本末転倒である。いずれにしても人が足りないという現実が</p>

<p>あると思うが。そうした中、開成中学校と清水小学校で地域支援本部事業ということで、国からの指定を受けて学校の求めに応じて地域の人材を活用するといった取り組みを始めているところであり、まもなく具体的に進むと思っている。これが国の言う放課後の地域の人材の活用である。先生方はもっと学習に向き合って、あとの部分は地域で応援するというもの。中学校では、先生方が自分たちがやらなければならないと切実に感じてがんばっている。大事なものは、中学校に上がる前に小学校で自宅で学習する習慣を身に付けることであり、小学校の先生方に指示しているところ。</p>
<p>6 その他</p>
<p>その他案件なし</p>
<p>7 委員会閉会の宣言（吉本委員長）…16時50分</p>